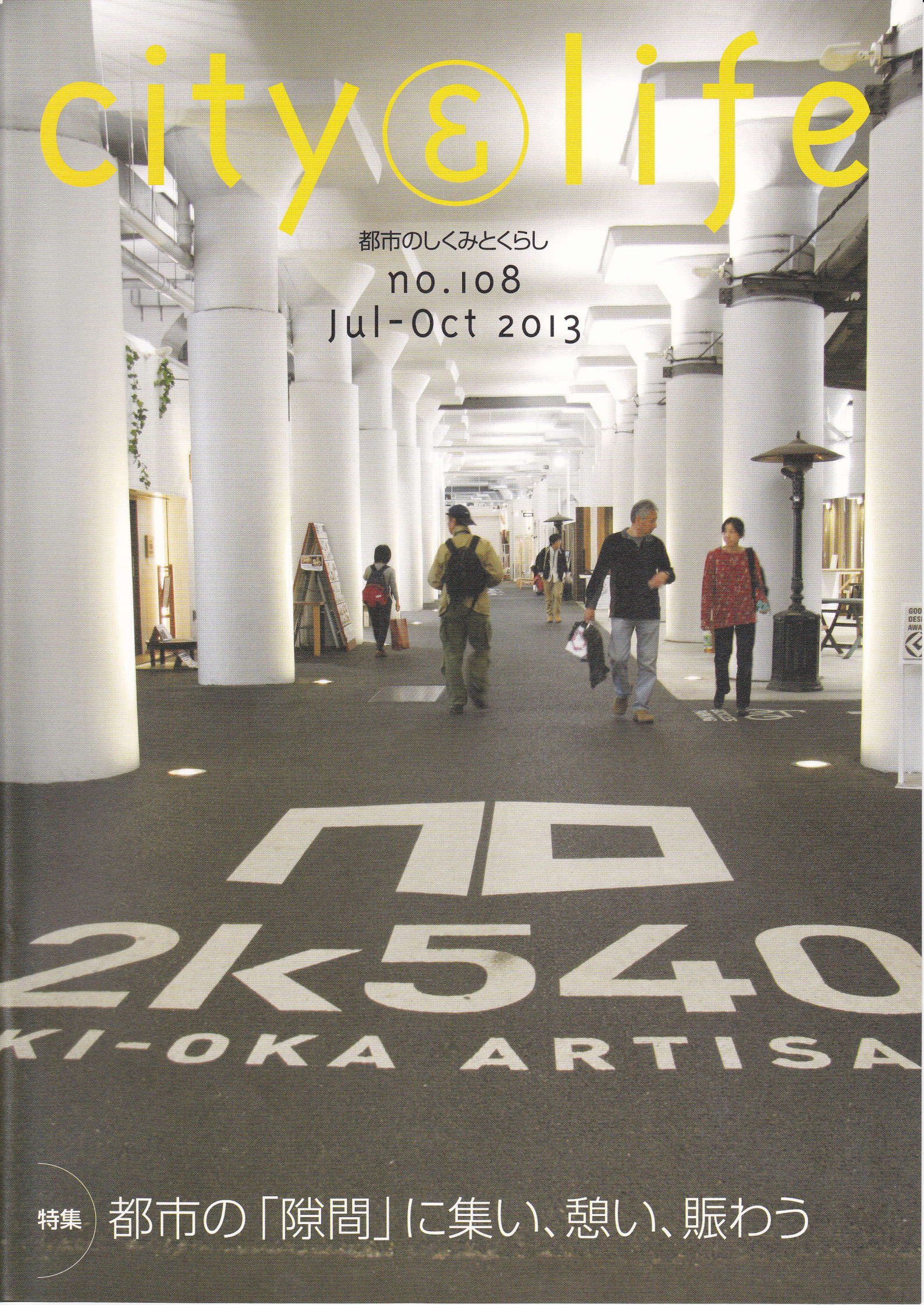
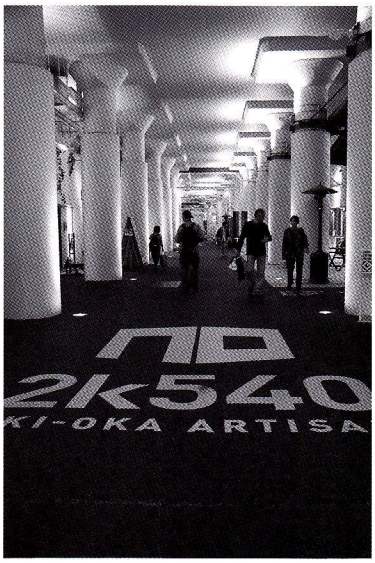
city&life

都市のしくみとくらし

no.108
Jul-Oct 2013



特集 都市の「隙間」に集い、憩い、賑わう



表紙――2k540 AKI-OKA ARTISAN（関連記事:p19）
裏表紙―ネコヤド商店街（関連記事:p28）
photo:佐藤真

巻頭言

「隙間」は都市のフロンティア

「知る人ぞ知る」という言葉は、ある種の賛辞として使われる。たとえば、マスメディアで取り上げられたことはないけれど、地元の人々が愛してやまない大衆食堂とか、社会的には無名だが、熱狂的なファンをもつアーティストとか。この時の地元の人やファン、いわば「知る人」は、その対象に「自分の／自分たちの」と強い愛着をもっている。

都市における路地や隙間も、まさにそういう存在だろう。

2006年、栃木県鹿沼市の、家屋と家屋の隙間のような、小さな路地から始まった「ネコヤド大市」は、「知る人ぞ知る」イベントだった。だからこそ、主催側のみならず、参加する人たちも「自分たちの」という愛着と一体感をもつことができた。そしてじわじわと、その一体感の輪を広げてきたからこそ、今や「ネコヤド商店街」となり、町ぐるみのイベントへと成長できたといえる。これが最初から、町をあげてのイベントとして、メインストリートで開催されたとしたら、ずっと継続できたかどうか。

隙間という言葉は比喩的に「普通は気づかないところ、盲点」といった使われ方をする。だとすれば、単なる生活道路、とるに足らない空間と見なされている路地や隙間には、まだ誰も知らない、都市の新たな魅力や価値が秘められているに違いない。

（編集部）

特集　都市の「隙間」に集い、憩い、賑わう

contents

視座 | 隙間をどう捉えるか | 三宅理一　2

インタビュー | ❶「隙間」からの都市デザイン | 吉松秀樹　14
❷「スキマ」が文化を生む! | 増淵敏之　24

ケーススタディ | 憩い、賑わう、新しい「隙間」
東京都新宿区「モア4番街」 | 常設のオープンカフェを実現した、大都市・新宿の小さな街路空間　6
大阪市船場地区「太閤路地プロジェクト」 | ビルの「隙間」に息づく歴史空間　10
東京都台東区「2k540 AKI-OKA ARTISAN」 | ガード下に生まれたアルチザンの街　19
栃木県鹿沼市「ネコヤド商店街」 | 小さな路地から商店街へ　28

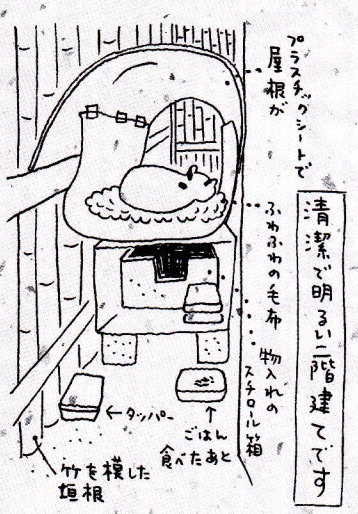
イラストコラム | 街のすきま猫ストーカー❶〜❹ | 浅生ハルミン　1,5,17,26

連載 | 震災復興Report⑤ | 住民参加のまちづくり提案を通して、「街なか」に住むことの意味を探る
宮城県石巻市「コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会」　33

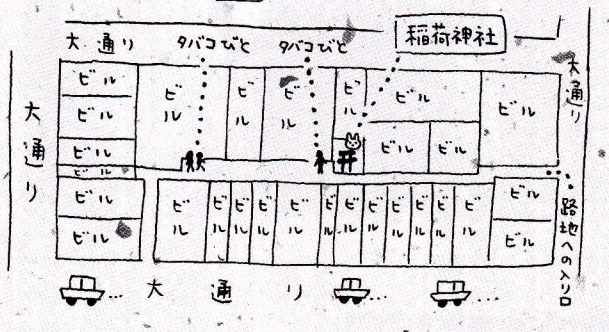
連載 | relay essay 私の好きなまち・くらし⑦ | Omiya on my mind ——わが心の大宮 | 玉浦雅明　37

back number・information　38

エアコンの室外機や各種配管が迫る裏道。
仕事からしばしエスケープしてタバコを一服している人、携帯電話で気がねなくおしゃべりしている人。赤い鳥居のお稲荷さんとビルのすきまに猫の家。白いきれいな猫がおやすみに。(キツネではなかった)



街のすきま猫ストーカー その① ビルの裏路地

by 浅生ハルミン

猫はいごこちのよい場所を見つける名人です。大通りから1本入った路地がすき。ビルに囲まれているけれど、すきまのような小路は車も入ってこず、静かです。そこは、近くで働く人たちが、タバコをふかしにやってくる、憩いの場所でもありました。